NO. 2021・67 号
発行日：2021 年 8 月 16 日

検査のパレット

中央検査科では 2021 年 4 月より、生化学項目の ALP・LD について従来の測定法(日本臨床化学会が定めた JSCC 法)から、世界的に普及している測定方法(国際臨床化学連合が定めた IFCC 法)に変更しました。今回は、ALP・LD(IFCC 法)の概要や変更点についてお話したいと思います。

①ALP・ LD とは？

◆ALP(アルカリ性ホスファターゼ)

ALP(アルカリ性ホスファターゼ)は多臓器に含まれる酵素の一種で、肝臓や骨などの細胞が壊れると血液中で上昇します。閉塞性黄疸や急性・慢性肝炎、骨の病気などで上昇します。

◆LD(乳酸脱水素酵素)

LD(乳酸脱水素酵素)は体内のブドウ糖がエネルギーに変わる時に働く酵素です。肝臓や心臓、骨格筋などの細胞が壊れると血液中で上昇します。急性・慢性の肝炎、心筋梗塞、白血病、腫瘍などで上昇します。

②JSCC 法から IFCC 法へ･･･何が変わる？

従来の ALP・LD の測定法は、国際的に普及している検査方法に統一されることで国内の測定値は海外の測定値と互換性を持ち、検査のグローバル化が進みます。

変更点は下記の通りです。

◆ALP(アルカリ性ホスファターゼ)

測定試薬が変わることにより、IFCC 法の測定値は従来の JSCC 法の約 1/3 になります。

また、JSCC 法では一部の血液型では疾患とは無関係に高値が認められましたが、IFCC 法ではそれが軽減されます。

◆LD(乳酸デヒドロゲナーゼ)

測定試薬が変わりますが、検査値に大きく変化はありません。

【基準値】

	JSCC法			IFCC法	
ALP	104~338	U/L	⇒	38～113	U/L
LD	106~211	U/L		124～222	U/L

今後とも検査室をよろしくお願い致します。

参考文献：・ALP･LD の測定方法変更に関するリーフレット
・ALP･LD 測定方法変更について(医療従事者向け)
一般社団法人 日本臨床化学会 発行

文責 斉藤 恵里　監修 永田 拓生